

常に母校と同窓会の発展を願って!

一般社団法人城岳同窓会会長 嘉数 昇明 (14期)

城岳同窓会の今年後半のカレンダーは、猛暑の夏から涼しい秋 の到来を待ち望むシーズンを迎えつつあります。城岳同窓会会員 の皆さまにおかれては、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げ ます。

さて、今年前半を振り返ると、5月20日(土)に開催いたしました城岳同窓会の総会と大懇親会(於ANAクラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー)は、年一回の一大イベントでありました。まず総会において代議員が改選、42名の方々が選出され、同窓会活動を各委員会に役割分担して、同窓会の発展に新風を吹き込み、寄与する運びとなりました。また、大懇親会は、40期の皆様が「一



城岳の絆—Bond of J. ~繋げよう城岳魂~」のテーマの下、新崎康雅実行委員長を中心に固いチームワーク、630人余の参加をえて大賑わいでした。また、10期の先輩方が、この度、那覇高校卒業60周年を迎えられ、記念品を進呈し、全員でお祝い申し上げました。来年は41期の金城寿実行委員長を先頭に張り切って、チャレンジ精神を発揮してくれることが期待されます。

6月23日の慰霊の日には、城岳原頭において「二中健児の塔」慰霊祭が二中の先輩方、ご遺族、同窓生、教職員、在校生など431名参列し挙行されました。今年も県立二中、神戸二中のよしみで、同窓会どうし友愛提携を結んでいる島田叡知事の母校、県立兵庫高校同窓会「武陽会」役員7名の方々に参列いただきました。

二中の先輩A氏より、ご自身が苦労して学校を卒業された思いを後輩たちへの支援にと、2008年に一億円の御寄付を原資に「A氏奨学金制度」が生まれました。さらに今年3月に五千万円が寄せられました。現在、その利息で県内1名、県外2名に対し、「A氏奨学金」を給付し、筑波大学、信州大学、同志社大学、琉球大学等優秀な国公立、私大へ25名が進学して現在9期生となっています。今回の新たな五千万円の寄付は、A氏ご本人より「海外への留学事業に活用してほしい」との強い希望がありましたので、今年度から那覇高校1年生から1名を選考して、海外の大学へ3週間の体験留学(ショートステイ・プログラム)する取り組みを行っていきます。広く世界で視野を広げる、ナハコーンチュ、を育てたいと思います。大変有難いご芳志に心から感謝申し上げたいと思います。

さて、2020年、東京オリンピックの年に、わが母校那覇高校創立110周年を迎えます。奨学金資金造成を念頭に3年間、ホップ、ステップ、ジャンプで第1回「県立二中・那覇高校創立110周年記念ゴルフコンペ」を来る10月30日(月)沖縄カントリークラブで開催いたします。多くの同窓生皆さまのご参加・支援協力をお願い致します。

第17回那覇高校・首里高校親善スポーツ大会が、11月11日(土)に行われます。野球・バレーボール・バスケットボールなど交流試合を楽しみにしております。

スポーツの秋、読書の秋を迎え、文武両道の那覇高生の活躍と、城岳同窓生の発展を祈念致します。

同級生という仲間たち

沖縄県立那覇高等学校校長 宮城 勉

私の義父は、二中31期生である。嬉しいことに、船舶行政での功労者として百周年記念誌「城岳百年」の人物群像の中にも列挙されている。その義父は現在歳のせいで身体に自由がきかず、外出も難しい。その義父が一番気にしていたのが、二中慰霊祭への参加であった。私が他校に赴任中の2、3年前の慰霊祭には、側について手を引いて焼香もできたのだが、「君が那覇高校の校長となると主催者側としての参加で、自分の手伝いをするわけにはいかないだろう」との本人からの言葉で結局昨年、今年と2年連続不参加となった。



義父85歳の頃であっただろうか、それまで毎年の楽しみであっ

た同期会を、参加者が少なくなってきたことを第一の理由にこれからは開催しない、という事を義父の口から聞いた。年齢を重ねるごとに、友人たちがこの世を去ることで寂しさが募る同期会をしていたのだろう。近年は「昨年は~さんがいなくなった。」と寂しそうにつぶやく姿はこちらが辛くなるのだ。慰霊祭に参加できなかった義父は、本当に辛い顔で、申し訳ないと言葉にする。苦難をともにした仲間が亡くなる悔しさを若い頃の戦争で経験し、その友人たちを慰霊祭で思う。今は年齢の壁にぶつかりながらも友人を思う義父の姿を誇りに思う。

那覇高校は、いつまでもこういう友人を思う生徒の集う学校であってほしい。この学校で有意義な 三年間を過ごしてもらいたい。勉強ばかりでもなく、部活ばかりでもない色々な経験を通して互いを 認め合い、いじめも無く、互いを思う「仲間」になってもらいたい。

私は入学式の際、式辞の中で3つのことを生徒にお願いしている。その一つが「互いを高めあう友を作ること。」である。多くの中学校からやってきた同級生が集うのは偶然ではなく、必然の出来事なんだということを感じ取り、諸活動に幅広く活躍する良きライバルとして互いに切磋琢磨してもらいたい。との願いを式辞に込めている。高校時代の友は生涯の友。という言葉にあるように、多感なこの時期に苦楽をともにした仲間たちとの交流は生涯を通じてのものであり、だからこそ同期会や同窓会で顔を見、名前を見たときに思い出の中から波のようにあふれ出てくる記憶は、あたかもつい昨日の出来事のように蘇ってくるのではないだろうか。

同級生という仲間は大切にしたいものだ。

授与されました。

しい結果を残しました。

平成 28 年度城岳賞

城岳賞は母校の教育活動支援の一環として、学業・部活動・地域社会貢献等顕著な業績をあげた個人又は団体を学校長の推薦を受けて、表彰する目的で平成18年に設けられた。平成28年度は書道部に

書道部は、毎年九州高等学校文化連盟美術・工芸、 書道、写真展における席上揮毫大会に出場していま す。平成28年度は全国大会にも派遣される等素晴ら

また、グローバル・リーダー育成短期研修事業「沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム【書道部門】」において、今年度は3名が台湾へ派遣されました。更に、各種学校行事においても積極的な活動を行なっており、文化面で大きく貢献しています。



平成29年2月28日の卒業式リハーサルに於いて、全校生徒の前で贈呈された。

A 氏奨学金第9期生

A氏奨学金制度は平成19年(2007年)に二中出身のA氏から1億円のご寄附を戴き、その利息をもって、毎年県内1名、県外2名の進学を支援するものである。

《奨学生の資格》

- ・地域社会や城岳同窓会への貢献が期待できるものであること。
- ・大学へ進学し、高校在学中は、学業・人物ともに優秀であって経済的理由により、学業継続が困 難な者であること。

《奨学金の額》

県内は月額 20,000 円 (年額 240,000 円)、県外は月額 40,000 円 (年額 480,000 円) を、3月と8月の2回に別けて支給する。

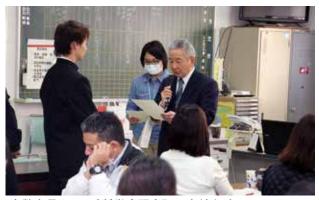
平成28年度A氏奨学金第9期生の面接を平成29年3月16日に行ない、3月22日の職員会議に 於いて、嘉数昇明同窓会長から認定証の交付及び贈呈を行なった。

A 氏奨学金第9期生の進学先

玉城 和為 さん 琉球大学 観光産業科学部 産業経営学科

佐藤 龍 さん 大阪市立大学 理学部 生物学科

翁長 真緒梨さん 都留文科大学 文学部 英文学科



嘉数会長よりA氏奨学生認定証の交付を受ける。



左から佐藤龍さん、翁長真緒梨さん、玉城和為さん

A氏は、自分の後に続く人が出てくることを切望して、平成29年3月に新たに5千万円を寄附して下さいました。

奨学事業を一層充実する為に,口座を開設しました。県内・外はもとより、海外からの寄附を受付けております。同窓生皆様方の積極的なご協力とご支援をお願いします。

沖縄銀行 二中前出張所 店番 110 普通預金口座番号 1444239

口座名義 社)城岳同窓会 会長 嘉数 昇明



平成29年度城岳同窓会総会・懇親会

平成29年度の城岳同窓会の総会・懇親会は那覇高40期生が幹事として、「一城岳の絆―Bond of J.~繋げよう城岳魂~」のテーマで企画・運営のもと630人余の同窓生が集い、母校に対する支援や会員相互の交流など意義深い時を過ごす事が出来ました。

日 時:平成29年5月20日(土)

総 会=羽衣の間 17:00

懇親会=彩海の間 18:30

会場: ANA クラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

●総 会

〈決議事項〉

- (1) 理事及び監事の選任について
- (2) 平成28年度 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)並びにこれらの付属書類等及び監査報告について

〈報告事項〉

- (1) 平成28年度 事業報告について
- (2) 平成29年度 事業計画について
- (3) 平成29年度 収支予算について

●懇 親 会

総会・懇親会の実行委員会は那覇高校を卒業して30年目の期が 行なう事になり、今年で13年目になります。その年の実行委員会 のチームワークやアイデアにより、懇親会の進行やパンフレットの



嘉数 昇明会長があいさつを行なう。



定時社員総会の様子(後列はオブザ ーバー参加による一般会員)



別室にて代表理事、業務執行理事、副 会長等を選任する。



卒業 60 周年記念撮影には 60 名の 10 期生が集いました。

つぼや眼科

2098-862-5004



■那覇市壺屋 1-7-16

■診 察 日:月~土曜

■休 診 日:木曜・日曜・祭日■診療時間:午前9:00~12:30

- 12 · 30 ~ 12 · 30 ~ 12 · 30 ~ 12 · 30 ~ 12 · 30 ~ 5 · 00 ~ 5 ·

土曜 午前9:00~12:30



城



美恵子(25期)

眼鏡職人の店



眼鏡歴 37 年の眼鏡 職人が貴方の眼鏡を ジャストフィットへ 眼鏡の見え具合は調 整で違います

ビッグメガネ那覇

院長

金

店主 新 里 智 英 (25期)

TEL. 098-863-6202 携帯 090-3061-0108

bigmegane.order@gmail.com (毎日ブログ更新中)

営業時間:平 日 午前 10 時~午後7時

日曜・祭日 正午~6時

定 休 日:水曜日

内容がバライティー豊になってきた事に伴い、参加者の数が 800 人余に増加する等年ごとに活性化されてきました。

平成28年8月に総会・懇親会の実行委員会が城間 正史 実行委員長(39期生)から新崎 康雅実行委員長(40期生) に引き継がれました。今年度は10期生が卒業60周年となり、 記念品の贈呈が行なわれました。

平成29年度の懇親会には県内で活躍されている多くの同窓生の参加がありました。

元沖縄県知事 稲嶺 惠一氏 (5 期) 元沖縄県副知事 嘉数 昇明氏 (14 期) 前沖縄県知事 仲井眞弘多氏 (10 期) 現沖縄県知事 翁長 雄志氏 (22 期) 現沖縄県副知事 浦崎 唯昭氏 (15 期) 現那覇市長 城間 幹子氏 (22 期)

更に、那覇高出身で那覇高の学校長経験者 7名も参加しました。

16 代校長 源河 徳博氏 (7期) 21 代校長 名嘉山興武氏 (17期) 22 代校長 翁長 武範氏 (20期) 23 代校長 山田 保氏 (26期) 24 代校長 儀間 清隆氏 (26期) 25 代校長 森田 邦弘氏 (27期) 26 代校長 宮城 勉氏 (30期)



二中の校旗を振りながら、力強く二中校歌を 斉唱した。



金城 寿氏(41期)を委員長とする次期実行委員の皆さん。



続いて、那覇高校歌になると隣同士が腕を組み会場が振動するほどの大合唱になった。



新崎 康雅氏(40期)を委員長とした実行委員会から、心を 込めて成功のお礼を述べる。



在宅訪問診療推進医院医療法人 健賛会

さわやか歯科クリニック

〒902-0064 那覇市寄宮 173 番地の 1 (前田ビル2階)

お問い合わせ・ご予約 ハ ゴ シ ハ ニ イ イ **TEL. 098-854-8211**





院長安里英樹 (那覇高 35期)

肩関節専門外来・一般整形外科外来

沖縄県南風原町字与那覇 283 番地 TEL.098-987-0011

二中健児の塔 慰霊祭

「鉄の暴風」が吹き荒れ、島全体が焦土と化した沖縄戦では、本校の前身である県立第二中 学校においても 187 名の学徒と 9 名の引率教諭が尊い命を散らしていった。戦後 72 年目の慰 霊の日に、先輩方のご冥福を祈り、戦争の惨禍を再び繰り返さない事を誓い、平和を祈念する 機会とする。

H 時 平成 29 年 6 月 23 日 (金) 午前 10 時~午前 11 時 10 分 (雨天決行)

場 所 二中健児の塔(城岳公園内)

参 加 者 遺族、二中同期生、城岳同窓会員、那覇高職員、那覇高 PTA、教育実習生、 生徒会役員、学級代表(正副級長2名)、吹奏楽部・合唱部、放送部

- 城岳同窓会副会長 1. 開式のことば 嘉納 勝
- 2. 二中校歌献楽 那覇高校吹奏楽部・合唱部
- 3. 黙 祷
- 4. 読 経 護国寺住職 名幸 俊海
- 5. 追悼の辞 同窓会長 嘉数 昇明
- 6. 誓いの言葉 生徒会長 舟田 琉人
- 7. 遺族代表挨拶 二中健児の塔遺族会代表 金城 恒陽
- 8. 焼 香
- 9. 弔電紹介
- 10. 閉式のことば 那覇高校教頭 玉木 亨



430 人余の参列者が平和を祈念して焼香

二中健児の塔清掃活動

6月23日に挙行される二中健児の塔慰霊祭の前日6月22日の放課後に、那覇高校生に よる二中健児童の塔清掃活動が行われた。

慰霊祭当日は、学級代表の参加であり、慰霊祭の準備として全校生徒で清掃活動を行な

うことで、先輩方の ご冥福を祈り、あら ためて平和の尊さを 考える機会とする。」 との目的で実施され ています。



二中健児の塔周辺を3年生が心を込めて 清めた。



慰霊祭には大勢の関係者がお見えにな るので、しっかりと清掃します。



代表取締役社長

武 聡 満 (那覇高37期)

蘭 動物病院

〒901-2127 沖縄県浦添市屋富祖 1-4-3 タウンハイツ仲里 106 TEL: 098-878-1073 FAX: 098-878-1083

愛トリミングハウス

〒901-2127 沖縄県浦添市屋富祖 1-4-3 タウンハイツ仲里 102

TEL/FAX: 098-874-0039

追悼の辞

一般社団法人 城岳同窓会会長 嘉数 昇明

本日、ここ二中健児のみ霊の前で、御遺族、城岳同窓会員、那覇高等学校職員、在校生の列席のもと、慰霊祭を挙行するにあたり、謹んで哀悼の意を表します。

忌まわしい大戦終結から72年の月日が過ぎましたが、御遺族の皆様にとりましては、愛する肉親を戦争によって奪われた無念さは、果てる時はないでありましょう。「あの戦争さえなければ」、多くの子や孫に囲まれ、幸せな日々を送っていたことでしょう。また、沖縄にとりましても、多くの大切な人材を失いました。



沖縄は今の沖縄とは大きく変わっていたことでしょう。平成の平和な世に生きる私達は、この地に眠る二中健児の皆様の犠牲を忘れることがあってはなりません。ここ、二中健児の塔に祀られた196 御柱よ、二中校歌の奏楽を聞かれたでしょうか。「楚辺原頭に風清く、永遠にゆるがぬ城岳 その秀麗の地を占めて 我が学び舎は聳え立つ」 那覇高校吹奏楽部、合唱部の演奏を聴きながら、御遺族の方々は、きっと、永遠に変わらぬ、少年の日の姿をまぶたに思い描かれたことでしょう。同じ時期に学窓にあり、戦火の中を幸いにも生き抜いた同期の方たちも、在りし日の友の元気な姿、あの言葉、あの笑顔が目に浮かび、万感胸に迫るものがあるかと存じます。

この城岳の丘は、戦時中、県立第二中学校の学生たちが、毎月、一度の朝会を開いていた思い出の場所です。当時の校舎は軍隊の兵舎に使われ、近くの小学校の教室を借りての二部授業、軍需工場や飛行場整地への勤労動員のさなかでした。昭和19年、10月10日の大空襲で、その校舎も全て焼け果てた後は、学徒兵として動員され、多くの仲間が、鉄血勤皇隊あるいは通信隊の一員として、尊い命を散らせていったのでした。激しい戦火の中で、学生たちが、いかに学問への情熱を燃やしていたか、平和な世の中が来ることをどれほど待ち望んでいたのか。ここ城岳の丘を吹き渡る風の中に、亡き友や、師の声を聞くのは私だけでしょうか。

戦争ほど悲惨なものはありません。平和に見える今日でも、世界の随所で、内戦やテロにより、多くの命が失われています。いかなる理由があれ、戦争は決して許してはなりません。戦後72年、いまなお日本や沖縄を取り巻く不穏な状況が解消されていないのは極めて残念なことです。平和な沖縄に戻る我々の切なる思いは募るばかりです。

さて、二中・那覇高校も、今年、創立 107 年目を迎えます。我々城岳同窓会も、生徒が自学 自習に使えるように同窓会館を提供するなど、同窓会館を活動の拠点として、後輩たちのため に諸事業に力を注いでおります。それに応えるかのように、現在の那覇高校は、文化学習面また、 部活動においても新聞紙上をにぎわせています。校訓である「和衷協同」「積極進取」のもと職員、 生徒共々切磋琢磨している様子が目に見えるようです。

二中健児の皆様も、母校の生徒たちをどうか、温かく見守ってください。

今日、ここに集う私たちが日々を真剣に生き、新しい世紀の平和と繁栄の秩序を作り出していくことが、皆様の御霊に報いる道であると信じます。御霊よ、どうか安らかにお眠り下さい。 平和を守り、沖縄を世界平和の発信の地とすることを、生徒、引率教官 190 名余の御柱に誓って、追悼の辞と致します。

なお、本日の二中健児の塔慰霊祭に戦中最後の官選知事で、県民保護のため尽力された島田 叡氏の母校、旧制神戸二中、県立兵庫高校同窓会武陽会の方々が遠路はるばる来県され、参列 いただきました。御礼申し上げます。両同窓会は、平成25年に「至誠友好交流協定」を結ん でおります。ご静聴有り難うございました。

誓いの言葉

那覇高等学校生徒代表 舟田 琉人

今日、6月23日慰霊の日は、沖縄戦が年々に忘れ去られていることの反省と世界の恒久平和への希求、戦没者の霊を慰めるために制定された日です。 当時、沖縄では多くの一般市民が兵隊や看護隊として戦場の最前線へと 送り込まれ、20万人以上の人たちがその尊い命を奪われたそうです。その

食べる物もなく、寝る場所もなく、壕の中にひっそりと身を隠し、いつアメリカ兵がやってくるかわからない恐怖に怯えながら生活していたと、今

中には、私達と同じくらいの高校生たちもいました。



までの平和学習などで学びました。そして今年の平和学習では、那覇高校の校歌には、戦争と 戦後の沖縄のありさまから戦後の沖縄の復興を私達の先輩達が担ってきたことが歌詞に書かれ ていることも学び、校歌の歌詞になるほど沖縄戦が悲惨だったことがわかりました。

いま、戦争の体験者が減り、沖縄戦の記憶が風化しつつあります。これを遠い昔のことだと 考えている人たちもいますが、未だ多くの不発弾が住宅地などに埋まっていて、住民たちが危 険に晒されており、まだ戦後が終わったとは言えません。

戦後72年という長い年月によって戦争の恐ろしさを風化しつつある今だからこそ、今一度 歴史を振り返りしっかりと受け止め僕たちが後世に伝える側になりたいと思います。

二度と戦争という悲劇を起こさないように努力することを、ここに誓います。

そして、二中健児の塔に祀られている 196 名の御霊のご冥福をお祈りし永遠に安らかならんことを願い、誓いの言葉とさせていただきます。

遺族代表謝辞

二中健児の塔遺族代表 金城 恒陽

会場の皆さん、本日はお忙しい中を二中健児の塔慰霊祭にご参列賜り、誠 に有り難く遺族一同に代り厚く御礼申し上げます。

光陰矢の如しと申しますが、沖縄戦が終結してから早や72年になります。本日の6月23日は第32軍司令官牛島満中将と長勇参謀長が自決して組織的戦闘が終結した日です。沖縄県では県条例により沖縄独自の祭日となりました。その狙いは沖縄は第二次大戦で悲惨な戦場となったが、年ごとに忘れ去られようとしているのを反省し、「世界の恒久平和を希求するとともに、戦没者の霊を慰める。」ことを目的とする。と明記されています。



県は毎年、激戦地跡の摩文仁の平和公園で戦没者追悼式を挙行し、また、各健児の塔やひめゆりの塔等でも、関係者が集い慰霊祭を行なっています。

昭和19年12月中学校及び女学校の学徒動員について、軍と学務当局の間に数回の会議があって、学務当局はあくまでも学徒動員に反対であったが、軍命は至上命令でありました。県立二中では、4、5年生の鉄血勤皇隊は髙嶺村に配置予定され、2、3年生は適性検査を受けて無線45名、有線50名、暗号25名の各班に別れ、3月26日頃首里の第62師団通信隊に入隊した。

昭和20年2月連合区司令部会議に出席した配属将校の髙山代千八大尉は、二中は10·10空襲で校舎が焼けて授業が出来ないので金武小学校に移動した。北部の宇土部隊に入隊すると鉄血勤皇隊の金武移転を話し承認されました。

3月中に金武に集結した4、5年生は50~80名程いたが、3月25日髙山配属将校は「校長も居ない、武器弾薬も無い、食糧も無い、ここに居ても仕方ないので金武集結の二中隊は解散する。諸君は家に帰り、親の同意書をもらい最寄りの陣地や部隊に申告して入隊しなさい。但し、激戦地の南部には近寄るな。」と話され解散した。

その後、髙山配属将校は金武出身者と家に帰れない久米島の平良君など14~15名を引き連れて宇土部隊に入隊し軍服と武器を戴き山原の山々を迷走した。彼は、6月18日安田の漁夫のクリ舟で本村教諭と共に与論に渡った。戦後、出身地の鹿児島で2~3人の生徒と対面したそうだ。彼は常日頃、この戦いは必ず負けると悟り、山城校長等と見解を異にしていた。

本日、この慰霊祭に参列した次代を担う高校生諸君が不戦の誓いを新たにして精進される事を切望して止みません。

沖縄の言語と文化を海外へ発信!

ハワイ在住 聖田 京子

私は那覇高校9期生で、今年80才を迎える。29才に渡布したので、ハワイ暮らしの方がずっと長くなっている。何才になっても高校時代は懐かしく思う。卒業即就職を余儀なくされ,楽しくも悩み多かった高校3年時代が同時に思い浮かぶ。戦後の苦しい沖縄で我が家の家計ピンチを助けるため卒業と同時に就職した。幼い頃から将来は学校の教師と決めていた自分の進路には大学教育が必要だった。那覇高校の推薦で琉球銀行に就職し、私は働きながら慶応大学の通信教育(英文科)を選択、6年かけてやっと卒業することができた。



卒業と共に、憧れの教師!母校の那覇中学で英語教師になり幸せだった。しかし、教育現場で対応するのに必要な教育方法論の分野は広く,困難だった。翌年には米留学を目指し教育学の道を求めた。心理学者、マズローのニーズ段階理論について当時は知らなかったけれど、食と住まいの基本的ニーズが満たされると、またもや新たな修行に四苦八苦しながら人生という川に流される。流されながらも、好きな教育学を追求しつつ自己実現を求めていた。

教育理論では、環境と自己の内在する能力との相互作用によって人は成長し、発展を続けてい く。どこまで能力を伸ばせるかはやって見ないと分からない。そこが教育の魅力でもある。

人間力を充実

怖れず 侮らず 気負わず——<u>側立66年</u>

学力を充実

高校生課程・大学受験科



5 0120-61-3515

尚学院

那覇尚学院 867-3515 沖縄尚学院 932-3512

尚 学 院 小・中学部

那 覇 教 室 863-3684 仲井真教室 836-9541 小 禄 教 室 857-3055



沖縄教室 930-6000 沖尚前教室 836-2970

学院長 名城政次郎

副学院長名城政一郎

私は自己を含め、教育の持つ可能性を見出したいと考える。教職者は教育の可能性を信じて、学習者各自を理解し、その自己実現に寄り添って人々の資質を高揚することが必要であると考える。 私の場合、ハワイ大学に来てから教える対象言語が英語から日本語に変わったけれども、言語教育の方法論においては共通点があった。カリキュラム理論で、目標設定から教材、教授法、プロセス、評価までの研究は私にとって興味深いテーマとなり、専門分野として取り組むのに深い興味があった。

最終的に応用言語学と教育学を専攻し、ハワイ大学の東アジア語・文学部に教師として採用され、とても幸運なことだった。そこで40年間日本語教育に従事し、教師養成、特にカリキュラムの理論と教室学習活動の実践を担当した。最後の10年間は同僚のセラフィム教授と一緒に日本語科内に「沖縄の言語と文化」のコースを設定することに奔走努力した。カリキュラム内容の選定及び授業運営方法を編み出し、沖縄講座を担当した。その体験は正にカリキュラム理論の実践への応用でもあった。ハワイ大学で初めて、自分の故郷沖縄の言語と文化を、海外の学生を通して世界へ向けて発信しているのだと思えた時、本当に感慨無量だった。夢にも考えつかなかった事が現実化した。もちろん、ハワイ大学の沖縄学実現への強力な支えは学部の同僚による賛同とハワイの沖縄コミュニティーであった。丁度沖縄移民百年祭の西暦2000年から21世紀を迎える頃で、少数民族を受け入れる多文化受容の風がグローバル化に吹き渡り初めていた。講座が軌道に乗った時に、私は毎学期、クラス初日にはさんぴん茶とクルザーターで学生と共に心から喜びの「カリー!」を叫んだ。

講座が日本語専攻科目として学部内で継続的に設定されてから6年後(2010年)に、安堵と充実した思いで、私は73才でハワイ大学を退職した。退職年齢に規定がなく、退職の自己決定が自由にできるハワイの学校組織は有難いものだと今も感謝の念でいっぱいである。

次の人生最終段階へのモチベーションは、マズロー博士の心理学論によると、自分の周りで他の人々の自己実現を手伝うことだという。私は好きなうちなーぐちと文化紹介を海外の地域社会のために、力を抜いた傘寿者の楽な気持ちでハワイ沖縄センターのうちなーぐちクラスで教えたり、日本語放送局の週15分のボランティア放送で故郷沖縄の言語紹介をしている。ハワイからの沖縄文化の発信は場所が変わっても実に楽しい。

人はそれぞれ人生の川の流れに沿って流れ、流されながらも、ある時は力を奮ってそれに逆らうこともできる。そんな力の出せるのが青年の頃、脂とエネルギーまだまだ出せる壮年の頃、それから退職後。時間に恵まれる老年期だって人は一発踏ん張って流れを変えたりもできる。儒学者の佐藤一斎は「三学戒」で次のように提唱する。「少くして学べば、則ち壮にして為すこと有り。壮にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、死して朽ちず。」

最近の私は,老いてからの学びをするために、好きな歌や結い舞踊を学びはじめ、仲間との結いを深め、社交を広げている。ハワイの結い舞踊支部では平均年齢85才の女性たちがシニア・センターに集まり、活発なメロデーに合わせて踊っている。私も指導してくれる屋宜美佐子先生と懐かしい故郷のリズムに合わせ、一斉の味クーターな言葉をヌチグスイにしながら皆と共に手を取り合ってステップを合わせている。



「鎮魂の想い」を詠う一「プレ島守忌」俳句大会を終えて

島田叡氏事跡顕彰期成会·事務局 名嘉山 興武 (17期)

はじめに ~「島守忌」設定の背景~

6月26日は、沖縄県最後の官選知事・島田叡と警察部長・荒井退造の忌日である。その忌日の前日に「忌日句を詠むプレ島守忌俳句大会」を城岳同窓会館で開いた。6月の沖縄は、「祈りの季節」である。今なお、不条理なことを押し付け、理不尽な為政がまかり通る沖縄の現況を鑑みると、本土と沖縄との間でたびたび使われる「温度差」を強く意識せざるを得ない。その根源をたどれば72年前の沖縄戦に突き当たる。沖縄にとって沖縄戦は決して過去のものでなく、今と同じ「地平」でつながっていることにある。



その沖縄戦で、ひたすら「島守に殉ずる」という一点でその大任を果たして亡くなった島田叡と荒井退造。一昨年、あらためてその遺徳を顕彰する顕彰碑が、那覇市奥武山運動公園内に建立された。今般はこの二つの慰霊碑、顕彰碑を共に次世代へ継承し、そのヒューマニティーを高らかに詩歌で詠い、平和への願いを発信すべく「島守忌」を設定した。

平和を願い「島守忌」を季語に

詩歌文芸の重要な役割の一つに「人を悼むこと」があるという。古今東西、西洋では墓銘碑を捧げる習慣や追悼演説の慣行があり、古代中国においては挽歌の伝統がある。詩歌において死者を悼むことに最も篤いと言われる日本人。万葉の時代から和歌に挽歌=哀傷歌があり、その俳諧版として弔句がある。本県では、沖縄戦のあった夏の季語として慰霊と平和、不戦の祈りをこめて「慰霊の日」や「沖縄忌」が鎮魂の忌日として定着している。それらと並んで「島守忌」も多くの人々に詠んで貰い、季語として定着させたい。句会は、来年の本格実施を前に県内外の96人から計322句が寄せられた。とりわけ、荒井氏の故郷栃木県から31人(高校生6人を含む)計95句が寄せられ、関係者を喜ばせた。参加者は、投句者や俳句愛好者、「島守の会」会員、マスコミ関係者など45人。狭隘な会場はすし詰め状態で、独特の節まわしで披講される二時間半余の句会は熱気につつまれた。

作品は、島田叡と荒井退造の高潔で崇高な人間性、死を眼前に望郷の念に駆られた心情、平和を希求して止まない県民の切なる思い、鎮魂を詠った句などが数多くあった。最高位の「天賞」には那覇市の前田貴美子さんの句「島田忌の 蝶へひとすぢ 海の青」が選ばれた。黒い羽に鮮やかな青色が入るアオスジアゲハを南部で見かけ、未だに遺骨が見つからず、摩文仁の海に没したかもしれない島田、荒井両氏への思いを鮮烈な青で表現した句である。

結びに ~今後の展望「沖縄の島守」を語り継ぐ~

いよいよ来年は初の本大会を迎える。近年、島田、荒井両氏の縁で兵庫・沖縄・栃木の交流が深まっている。去る7月30日には、宇都宮市で「兵庫・沖縄・栃木トライアングルパネル討論会」が開かれ、 嘉数昇明氏(城岳同窓会・本期成会長)がパネラーとして登壇し、熱い思いを語った。本県からも関係者を含め17人が参加。兵庫・栃木の皆さんと交流を深め「絆」を確かめた。

今後の展望として、その三県を軸に規模を拡大し「島守忌」が全国的にも認知されるよう事務局としても努力をしたい。さらに次の世代へ継承させるという趣旨から高校生部門を新たに設け、若い世代の相互交流が芽生えることを期待したい。そして、6月23日の「慰霊の日」に県主催で行われる「島守の塔」慰霊祭の席上、最高位の句「天賞=知事賞」が献詠されることを願っている。

最後に、「天賞」以外に受賞した作品と高校生の句の一部を紹介する。

□ 滴りのやがて大河に島守忌	(「地賞」金城真理子:宜野湾市)
□ 球形の一閃となる島守忌	(「人賞」松島季風(弘明):城岳同窓会 17 期)
□ 戦場も今は若木の生える野か	(「入選」田中尚人:字都宮高校1年)

城岳同窓会の終身会費について

一般社団法人城岳同窓会は会員相互の親睦を図るとともに、那覇高等学校の発展に寄与する こと及び地域社会に貢献する事を目的としております。また、本会の経費は会員の拠出金、寄 附金、事業収益金及びその他の収入をもって充ております。

さて、会員の拠出金は、年会費1,000円または、終身会費5,000円によって賄われております。 年会費を一括で5,000円を納入した場合は、終身会費と見なし、以後年会費は徴収致しません。 伝統校の誇りと自信に満ちた校風の継承と発展の為、同窓生一人ひとりの積極的なかかわりと ご芳志をお願い致します。

振 込 先: 琉球銀行樋川支店 店番号 314 口座番号 普通 338301

口座名義人: 一般社団法人城岳同窓会 会長 嘉数 昇明 (カカズ ノリアキ)

ご芳名の前に卒業期をご記入下さい。

問 合 わ せ: 一般社団法人城岳同窓会 事務局 與儀 幸英

〒 900 - 0014 沖縄県那覇市松尾 1 丁目 21 番 53 号

TEL (FAX): 098-867-2525

城岳同窓会館のご案内

「母校に同窓会館を」との声が同窓生の間から叫ばれ、同窓生各位のご尽力により平成8年 に実現しました。会館は同窓会員の親睦の場です。会員のみなさん、どうぞご利用下さい。

- ・2階は二中・那覇高の歴史を後世に語り継ぐ資料展示室及事務室
- ・3 階は会員のクラス会、会議、趣味の集まりなどに利用でき、収容人員は50人です。なお、使用料金(光熱費)は1団体:1時間800円です。
- ・4階は自学自習室として、学校が活用しています。



城岳同窓会ホームページ http://www/jogaku.or.jp

城岳同窓会会報

編集発行 城岳同窓会 = 900 - 0014 沖縄県那覇市松尾1 - 21 - 53 電話・FAX 098 - 867 - 2525

E-mail: yogi@jogaku.or.jp